

アーティストの服部美樹氏

東京メタルを訪問

アーティストの服部美樹氏(金工作家)は昨年9月1~23日の期間、マキイマサルファインアーツ(東京都台東区)で初の個展「博士の愛する生物」を開催(昨年10月22・29日号既報)。本紙記者取材の際に、「作品がアルミニウム製の為、適している着色済みアルミ製緩み止め(スプリング)ワッシャーを提供可能な企業を紹介してほしい」と要望があり、11月7日に(株)東京メタル(神奈川県川崎市、竹田弘二社長)を訪問し、提供の約束及び工場内の見学を行った。



同社提供のアルマイト処理(紫色に着色)済みワッシャーで解決



今までは素地のステンレス製ワッシャーで代用

ていないステンレス製で代用している点、また「無機質な金属」の素地のままではカラフルな作品として見栄えが悪く、目指している「有機的な生物感」を表現しきれない問題について解説した。

この話を聞いて竹田社長は、自社でアルミ



提供されたアルミ製スプリングワッシャー

一つ分を乗り越えて歪んで締結される事で、元に戻ろうとする反作用によって緩み防止機能を発揮する点を説明すると、服部氏は構成している部品でも工夫を凝らして機能を持たせられる事に感心した。また服部氏の要望で、工場を見学。巻かれた線材コイルを直線に伸ばし、芯となる丸棒に巻き付け、丸棒の方向に沿って巻かれた線材を力タ

て巻かれた線材を力タで切断する事でワッシャーを製造する工程を学んだ。服部美樹氏公式HP <http://hatorimic.com/>

服部氏はアルミのアルマイト処理(着色)によるCGのようなカラフル・立体的な発色に魅了された事から、2009年よりアルミ製パーツをねじで締結した作品制作を開始。作風は金属光沢を持つ多様な色の組み合わせでのコントラストを好

み、旋盤で加工したアルミの棒材・球体パーツを中心に、「歯」や「棘」「触覚」、そして七宝焼で作った「眼球」を組み合わせた摩訶不思議な「クリーチャー」を制作。誕生までのストーリーもあり、「狂った博士が実験によって

作品制作における接合方法として「ねじ締結」を選択した背景は、「接着」では金属が表面の為に強度不足、「溶接」では接合部分のアルマイト処理が剥離し素地が露出、「リベット接合」は板状のパーツには適しているが球体パーツが多い為不向きであり、切削で各パーツにねじ山を形成しての「締結」を選択。その際に各パーツは自宅のアトリエ内でアルマイト(着色)処理していたが、アルミ製ワッシャーの調達及び処理が難しい

「この部分を着色したワッシャーに変えたいんです」と服部氏



竹田社長(左)と服部氏



「この部分を着色したワッシャーに変えたいんです」と服部氏

物、接続類：通称・ネジ、タクト(着色)処理していたが、アルミ製ワッシャーの調達及び処理が難しい

(超々ジュラルミン(A7075)製ワッシャーを製造し在庫体制を確立し、様々な発色のアルマイト処理済みにも対応している点を説明。工業製品がアトリエに必要とされている点に関心をもち、服部氏の要望に応じて今後も提供する事を快く承諾した。

続いて竹田社長は同社開発の緩み止めワッシャー「YOSHER(ヨッシャー)」も紹介。ワッシャー自体にねじ山の谷部に沿う形で角度を付けて曲がった形状で、ボルト頭部・ナットや母材に挟まれるとワッシャー内側の片側部分が、ねじ山

一つ分を乗り越えて歪んで締結される事で、元に戻ろうとする反作用によって緩み防止機能を発揮する点を説明すると、服部氏は構成している部品でも工夫を凝らして機能を持たせられる事に感心した。また服部氏の要望で、工場を見学。巻かれた線材コイルを直線に伸ばし、芯となる丸棒に巻き付け、丸棒の方向に沿って巻かれた線材を力タ

て巻かれた線材を力タで切断する事でワッシャーを製造する工程を学んだ。服部美樹氏公式HP <http://hatorimic.com/>

アルミ製緩み止めワッシャー (ばね座金)



- ▶ 素材は超々ジュラルミン(A7075)
- ▶ 鉄・ステンレス製と比較してへたりは少ない、比重は約 1/3
- ▶ サイズは M6・M8・M10・M12 ※表記サイズ以外にも対応可
- ▶ 材料・製品ともに在庫あり
- ▶ アルマイト処理など各種表面処理にも対応

謹賀新年



KTM

株式会社 東京メタル

〒213-0032 神奈川県川崎市高津区久地3-5-1 TEL.044-811-7021 FAX.044-811-7026 URL <http://www.tokyo-metal.com> E-MAIL info@tokyo-metal.com

ISO 9001 (2008年度版) 認証取得

